

## 2017年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

Aytug Bozagaoglu (ジャンティイ市、フランス)

平和首長会議事務局の皆さま、  
フランス平和首長会議の皆さま、  
そしてジャンティイ市代表者の皆さまへ

広島で過ごした10日間は私の学生生活の中でも最も中身の詰まった時間でした。それは学びに満ち（Ⅰ）、感情を揺さぶり（Ⅱ）、帰国してから皆に伝えたい歴史の遺産を引き継ぐことであり（Ⅲ）、大きな計画の立案に向けたインスピレーションを与えてくれたのです（Ⅳ）。

### I. 学びに満ちた10日間

広島市立大学では、私たちはまず異文化間コミュニケーションの授業を通してお互いに知り合うことを学びました。実際、これはとても大事なことだったのです。このプログラムには生まれも国籍も違う多くの人たちが参加しており、アメリカ人、ロシア人、イギリス人、ドイツ人、カナダ人、ウクライナ人、ブラジル人、中国人、台湾人、レバノン人、パキスタン人、そして多くの日本人により、まさしく「人種のるつぼ」が形成されていたのですから。そのためコミュニケーションは非常に重要でしたし、プログラムも全て英語のみで行われました。私たちはお互いの文化の違いを理解し、乗り越える方法を見つける必要がありました。

次に、私たちは主題について幾分技術的な問題を学び、原爆の科学的機能や歴史について理解しました。核兵器が使われたのは日本との戦争を終わらせるためではなく、むしろ冷戦の下地作りのためだという事実認識も学びました。

また、私たちは原爆の法的な側面についても学びました。法学部の学生である私にとっては特に興味深い授業でした。核兵器を抑止力であるとして正当化することは法的には無効であるということを知りました。実際、他国に脅威を与えることで安全を保障することはできないのです。法律の使命は大国の現実政策の要求に合わせることはありません。あらゆるものの中心に人命を据えることなのです。

### II. 感情を揺さぶられた10日間

このプログラムは非常に感情を揺さぶるものでした。被爆者の方々にお会いする機会が2度あったのですが、彼らの話を聞いた途端、授業で学んだ技術的な話は全て頭から飛んでしまいました。散り散りになった家族、破壊され損傷した死体、孤児となった子どもたち、一発の爆弾により愛する人たちが虐殺された中で生き永らえる恥、こうしたものが広島の感情的な側面であり大きな現実だったのです。

しかし私が最も感銘を受けたのは、被爆者たちに怒りが無いことです。彼らはアメリカ人を同じ人間としか見ていません。人間は過ちを犯すものであり、怒りでは何も解決できないと考えているのです。だから彼らは、主に広島の記憶を復元し伝えていくことに取り組んでいるのです。

世界をより良くし、大惨事を繰り返さないようにするという希望が、広島の取組の

中心にあります。光栄なことに広島市長は私たちを温かく迎え、責任を持って新たな悲劇を生まないよう努めることこそが全ての国々の担う使命であるということを説明してくださいました。広島に原爆が落とされてから72年目となる今年8月6日には、日本の安倍晋三総理大臣も同様の期待を示し、核保有国に対し厳粛な平和のメッセージを送りました。

### III. 歴史を引き継ぐ10日間

私はたくさんの新しい知識と共にフランスに帰ってきました。こうした知識を得る機会に恵まれなかった人たちにこの知識を伝えていくつもりです。私はこのプログラムに参加できたことを非常にうれしく、そして名誉に思います。運営も極めて素晴らしく、平和首長会議の皆さんに大変感謝しています。

私の計画についてですが、職業選択の際にこうした核兵器との闘いを考慮に入れたと思っています。実のところ、私は最終的に人道法を専門とした国際弁護士になりたいのです。人々が私たちに向ける大きな期待に応えるためにも私たちは絶えず闘い続けなければいけないのだということを、広島は常に思い出させてくれるでしょう。

第二に、私の経験をフランスの若者たちに伝えたいと思っています。大学の仲間たちに、私が経験したことについて話を始めていますが、そこで分かったのは、私たちは核兵器について極めて無知であるということです。この兵器に関する国際法の穴を残しておく危険性について、他の人に説明しなくてはならないことも分かりました。

### IV. 将来の計画へのインスピレーション

プログラムを終えてすぐ、私はトルコのアンカラにある欧州評議会プログラムオフィスでのインターンシップに参加し、トルコ当局と意見や情報のやり取りを始めました。実のところトルコは核兵器との闘いにもっと積極的に取り組んでもよいはずであり、だからこそ私はトルコ外務省とこの問題について協議を始めたのです。いくつかとても興味深いフィードバックをいただくこともでき、この地域での私の平和推進活動をこうしたトップダウン方式で行えるのではないかと思えました。政府高官の協力を得ることができれば、マスコミに働きかけてその活動の目指すところに対する人々の関心を高めることもできるでしょう。

加えて、私はフランス、特に私の大学でも活動を行うことができると考えています。この問題について私たちは教授陣とも話し合いを始めました。実際、地政学的に複雑な時代なので、核兵器は何の解決にもならないということを提示する必要があるのです。

最後に、ジャンティイ市においても、私たちは現在、若者や高齢者など様々な社会集団と共にボトムアップ方式による解決に取り組んでいます。私たちは日本文化の紹介とともに、広島で起きたことを人々が忘れることのないように説明していくつもりです。

こうした体験をさせていただいたことに、今一度感謝を申し上げます。